

【中巻】安芸郡馬路村の第三セクター「エコアス馬路村」(社長＝上治堂司村長)が、東日本大震災で被災した宮城県七ヶ浜町に、間伐材で作るコースターの作製キットを600セット贈る準備を進めている。仮設住宅などで暮らす人に木のぬくもりを届けるとともに、共同作業を促して引きこもりや孤独死を防ぐのが狙い。

(浜崎達朗)

## エコアス馬路村 600セット寄贈へ

七ヶ浜町は同県中部の沿岸にあり、人口約2万人。津波で町の約32%に当たる4・2平方キロが浸水し、揺れの被害も含め住宅1318棟が全半壊した。

1211人(4月2日現在)が仮設住宅での生活を余儀なくされており、町は、慣れない生活環境で起きやすい、引きこもりや孤独死の防止に力を入れている。

東北の被災地の支援活動を続けている県内関係者が、同町で「みんなが集まって作業できるものはないか」との要望を受け、同社に相談。同社は、製造販売しているコースターの作製キットを届けることを決めた。

キットには、間伐材を厚さ約0・3センチにスライ

## 引きこもり、孤独死防止に

スした「かなほ」と呼ばれる長さ13センチ、幅1・8センチの材料が20枚ほど入っており、これを格子状に編んで四角いコースターを作る。1時間ほどの手作業で完成させることができるという。

同社は同時に、仮設住宅などの住民に使ってもらうため、間伐材を使った備長炭入りの贈物とちわも、それぞれ600ずつ贈る予定。

7月上旬に上治村長と社員1人が現地入りし、直接物資を手渡すとともに、コースターの作り方を同町職員に指導する予定。上治村長は「村の特長を生かして支援できることはうれしい。今後も継続的な支援を考えたい」としている。

# 被災地でコースター作って



被災地に届ける予定の間伐材用品。四角いのがコースターの完成品

(馬路村馬路)